

令和 4 年 4 月の解説（週間天気予報）

【4 月の天候状況】

上旬は、全国的に高気圧に覆われやすく、晴れた日が多くなりましたが、1 日、3 日から 4 日は気圧の谷の影響で東日本太平洋側を中心に雨となりました。降水量は、東日本太平洋側を除いて少なく、高気圧に覆われた西日本と東日本日本海側でかなり少なくなりました。日照時間は全国的に多く、平年比は北日本日本海側 140%、北日本太平洋側 138%、東日本日本海側 158%、西日本日本海側 177%、西日本太平洋側 160%となり、それぞれ統計開始以来、4 月上旬として 1 位の多照となりました。1 日～4 日にかけては東日本、西日本と沖縄・奄美では寒気の影響で気温が平年を下回りましたが、北日本は暖かい空気に覆われました。6 日頃からは晴れて気温が上がりやすく、また南から暖かい空気が流れ込んだため、全国的に気温が高くなり、9 日と 10 日は東北地方以南で夏日となった地点が多くなりました。

中旬は、11 日～13 日にかけては、高気圧に覆われ、晴れて気温が上がり、また暖かい空気が流れ込んだため、全国的に気温が高くなり、東北地方や東海地方、近畿地方などでは真夏日となった地点もありました。14 日から 15 日頃は、前線や気圧の谷の影響で本州では雨となった所が多く、気圧の谷の通過後に寒気が流れ込んだため 16 日から 17 日は気温が平年を下回った所が多くなりました。19 日から 20 日は、高気圧に覆われて晴れた所が多くなりました。15 日頃は、台風第 1 号が小笠原諸島に接近して大荒れとなりました。沖縄・奄美では気圧の谷や湿った空気の影響を受けにくかったため降水量がかなり少なくなりました。

下旬は、低気圧や前線が本州南岸付近と日本の北をたびたび通過し、26 日には前線を伴った低気圧が日本海を東進したため、天気は短い周期で変わりました。本州付近は低気圧や前線の影響を受けやすく曇りや雨の日が多かったため、降水量は東日本、西日本でかなり多くなりました。特に東日本太平洋側の降水量は平年比 247%で、統計開始以来、4 月下旬として 1 位の多雨となりました。また、日照時間は西日本太平洋側でかなり少なく、東日本と西日本日本海側で少なくなりました。一方、低気圧の影響を受けにくかった北日本と沖縄・奄美では日照時間が多くなりました。25 日～27 日頃にかけて暖かい空気が流れ込んだため、全国的に平均気温がかなり高く、関東甲信地方や九州北部地方、沖縄地方では真夏日となった地点もありました。沖縄・奄美の平均気温は平年差+2.6℃で、統計開始以来、4 月下旬として 1 位の高温となりました。

【4 月の検証結果】

「降水の有無」の全国平均の適中率(3～7 日目平均)は、例年値(注)よりも 6 ポイント高い 79%でした。地方別の適中率では、全国各地方で例年値を上回りました。最高気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.2℃小さい 2.5℃で、北海道、東北、関東甲信、北陸、近畿、中国、九州北部の各地方で例年値よりも小さくなりました。また、最低気温の予報誤差(2～7 日目平均)は、全国平均で例年値よりも 0.2℃小さい 1.9℃で、北海道、東北を除く各地方で例年値よりも小さくなりました。

(注) 例年値は気象庁 H P (予報精度検証)内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【6月の週間天気予報の利用にあたって】

梅雨の時期は、曇りや雨の日が多く、大雨が発生することもあります。また、オホーツク海高気圧が強まると、梅雨前線は南下し、関東地方以北の太平洋側を中心に冷たい北東の風が吹き込むために気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、日照不足や低温によって農作物の生育不良などが起こります。週間天気予報からわかる向こう 1 週間の天気や気温の傾向を、農作物の管理等に役立ててください。